

校長室の窓から

「ついつける」じつは大きな実をつけよう！

長い夏休みが終わり、二学期がスタートしました。二学期は、学習発表会やマラソン大会など多くの行事があるとともに、一学期までに培ってきた力を発揮し、友達とかわりあいながら、多くの学びを得る時期でもあります。そのような時期だからこそ、「ついつける」ということになりながら学校生活を過ごしてほしくと思っています。

続けることは力になる。だからこそ、続けることは大事なのだということを表す「継続は力なり」という言葉があります。一方、反対に、続けることの難しさを考えさせる詩もあります。相田みつをさんという方が次のように表しています。「そのうちそのうち弁解しながら日がくねる」「やわなかったやわなかったどっちな」というものです。何かに挑戦しよう、目標をもって取り組もうとしています。すべてがめくらめたり、いやなことをすべて後にまわそうとしたりする。すべてに時間だけが経っています。「どきなかった」のは、やろうとしてもできなかったのか、そもそもやる気がなかったのかというものを問うた詩です。相田さんの詩にあるような弱い気持ちはたびたび私たちの心の中に生まれてくるものですが、一度決めたことは最後までめきめきしないです。頑張ろうとする強い気持ちをもつことも大事です。結果が必ずついつけるとは限りません。しかし、「頑張った」ということは、何らかの形で自分の力となっているはず。

二学期、多くのことに挑戦し、秋に実るんだもののように大きく成長してくれることを願っています。

学校長

田丸 栄